

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会(第5回新大阪駅東口まちづくり部会) 議事概要

日 時 : 令和3年12月23日(木) 午後7時~午後8時
場 所 : 東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

1 開会・部会長挨拶

2 議題

(1) まちづくりビジョンの検討について

(2) その他

3 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 座席配置図
- ・ 第5回新大阪駅東口まちづくり部会資料
- ・ 新大阪駅東口まちづくりビジョンの検討「概要版」

1. 開会・部会長挨拶

2. 議題

(1) まちづくりビジョンの検討について

(事務局)

- ・ これまでの部会での意見のまとめ、東淀川区西部地域バリアフリー構想や保健福祉計画、都市再生緊急整備地域検討協議会での検討の内容を示し、まちづくりの基本的な考え方としてまとめた。
- ・ 新大阪駅東口のまちづくりを検討する上で、東淀川区西部地域バリアフリー構想で掲げられた「ひとにやさしいまちづくり」と「玄関口にふさわしいまちづくり」の2つの視点が両輪となって東口のまちづくりを進めるそれが、東淀川区西部地域バリアフリー構想の実現に向けた取組みの基本的な考え方であると考えている。
- ・ この考え方を基本に地域と一体的なまちづくりとを実現する上で、東淀川区西部地域の先導となるまちづくりの検討範囲そして核となる拠点エリアのまちづくりのイメージとその波及効果をまちづくりの進め方としてまとめた。
- ・ まちづくりの検討範囲は、当初からご説明しておりますとおり、新大阪駅東口から概ね500mの範囲で、道路等で囲まれた範囲を中心としている。
- ・ 市営住宅の建替えに伴う余剰地が、開発効果を周辺部へ波及させる核となる拠点エリアの一つとなりうると考えている。また、余剰地の範囲の案を3案示す。
- ・ まちづくりの進め方については、短い時間での面的な大規模開発ではなく、拠点エリアの開発誘導により地域と一体的に、緩やかに進めるまちづくりが適切であると考えている。今ある住民の生活や生活環境などの既存施設との共存を図りながら、既存施設の機能更新や建替え、用途変更などによる緩やかな開発により新たな人の交流や賑わいの創出が進めばと考えている。
- ・ このまちづくりの進め方としては、土地地権者、地域の方々、行政が同じ方向に向って取り組むことができるよう考え方をまとめていく必要がある。
- ・ まちづくりの考え方、進め方について質問や意見を頂ければと思う。

(意見、質疑応答等)

- ・特になし。

(部会長)

- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・緩やかにまちづくりを進めていく考え方は、私は良いことだと思う。
- ・ビジョンの検討範囲内に点在している処分検討地や公営住宅の余剰地等の中で重点的に事業が動いていくことになると思う。事業自体は土地毎に別々に動いていくと思うが、事業の内容も完全に別々のものになっては全体の調和がとれないので、全体として1つのストーリー、方針に沿って事業を進めていくために引き続きビジョンを検討して貰いたい。

(事務局)

- ・ビジョンの検討では3つの柱を基本に組み立てており、一つ目に東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取組みとして、「地域の人々が生活し活動する共生社会」とし、地域に住む人々の生活に根差した持続可能なまちづくりを掲げている。
- ・二つ目に都市再生の動きを活用したまちづくりとして、「多様な人々が活躍する大阪の玄関口」とし、地域の活性化の促進、新たな働き方と日常生活を掲げております
- ・最後に人とまちをつなぐ幹線道路沿線にふさわしいまちづくりとして、「地域とつながり全国へとつながる」とし、交通至便なアクセス性により利便性の向上と人の交流を促進する内容を掲げている。
- ・これら3つの柱をまちづくりの方向性として取りまとめ、それぞれの柱が一体化することで人にやさしく、そして大阪の玄関口に相応しい東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた、新大阪駅東口のまちづくりとして示しています。
- ・以上、事務局からの説明とさせていただきます。

(意見、質疑応答等)

(部会員)

- ・第2回新大阪駅東口まちづくり部会で確認された3つテーマ（大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり、人権を尊重する人にやさしいまちづくり、駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり）が具体化されたものが、「玄関口にふさわしいまちづくり」と「人にやさしいまちづくり」という2つの基本的な考え方だと思う。しかし、この具体化する時に人権を尊重するというテーマが抜けているのではないか。
- ・これまで通り特別対策で部落問題の解決をするのではなく、一般対策の取り組みの中で部落問題の解決をしていこうという流れで、新大阪駅東口まちづくり部会が取り組まれていると認識しておりますが部会長よろしいですか。

(部会長)

- ・はい。

(部会員)

- ・具体化するところで「人権を尊重する」という言葉を記載して頂きたい。

- ・まちづくりの方向性のまとめで示されている「地域との共生」という言葉の意味の説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・「地域との共生」という言葉は、まちづくりの方向性の一つである「地域の人々が生活し活動する共生社会」とその中での取り組みを集約し、「地域との共生」と表現をしている。また、「緩やかな開発」とも表現をしておりますが、地域の人を置いてけぼりにするのではなく、地域の人の生活の場がベースにまちが良くなっていくというメッセージも込めて「地域との共生」をまちづくりの目標の1つに設定した。

(部会員)

- ・「地域との共生」という言葉ではまちづくりの方向性としては、抽象的な表現になっているように思う。
- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容も尊重すべきであると思うが、そちらの検討内容に引っ張られているように思う。新大阪駅東口まちづくりビジョンは東淀川区の計画であり、先ほども述べましたが部落問題の解決を一般対策で取り組もうといった背景もあり、東淀川区の目線で作っていただきたいと思う。

(部会長)

- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会については、まだ時間を要すると思う。むしろ引っ張られるのではなく、本部会で作成した内容を具現化できるようにアピールしこちらから働きかける姿勢が必要だと思っている。

(部会員)

- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容を否定するつもりはない。ただ、現状の「地域との共生」や「にぎわいと交流」という言葉で留めずに「同和地区と周辺地区との交流で差別意識の解消」や「交流を深めることで被差別部落を解放」と具体的に活字として表現をして貰いたい。

(部会長)

- ・資料に示している「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」を集約して「地域との共生」と表現したつもりです。

(久教授)

- ・委員の方は「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」がどのように具体化されるのかということを指摘していると思う。
- ・個人的な意見だが、大阪市内には人権センターといった様々な施設があり、人権・啓発の拠点として地域の方々が主体的に保ってきたと思っている。しかし、そういった拠点が段々と閉鎖をしている。
- ・これからできていく新しい施設の中には、人権・啓発の拠点の機能も併せ持つような施設もあり、その施設の運営に地域の人々も積極的に関わっていくようになれば施設が閉鎖していったという流れから新しい拠点機能ができてくると思います。

- ・他の自治体ですが、人権センターではなく地域総合センターと表現している事例があります。しかし、大きな柱の一つとして人権・啓発の拠点の機能を持っています。
- ・日之出地区の方々が一つの柱となりつつ、周辺地区の方々も一緒に機能を盛り上げる、また、その交流が広がっていくような拠点施設が出てくればと思う。その思いは、「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」から読み取れるように思う。そのため、施設の機能を具体化するのには次のステップではないかと思う。

(部会員)

- ・これまでの議論がきちんとビジョンに反映されていることが分かるように工夫をして表現して貰いたい。例えば、先ほど仰っておられた「地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり」の部分に「部落解放による人権」という文言を足して貰えれば分かり易くなると思う。
- ・久教授が仰っていた機能の具体化をするのは次のステップという事については私も賛成である。但し、地元が議論に参加できようにして頂きたい。

(部会長)

- ・我々も部落差別という文言を使いたくないと云った思いはない。表現につきましては一度持ち帰り、検討させて頂ければと思う。本日の部会で内容を決定するわけではない。
- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・同和問題は大きな柱の一つになってくるとは思うが、昨今の人権問題は多様化してきておりターゲットを広げる必要がある。一方で、日之出会がまちづくりを続けてきた伝統も重々理解をしている。その伝統の延長上に今のまちづくりがあるということを経緯等で表現して貰いたい。

(部会長)

- ・ありがとうございます
- ・最後に、今後の進め方について、事務局に説明をお願いします。

(事務局)

- ・まちづくりの方向性については、区役所HPへ掲載することで広く市民の方に周知を図り、地域住民の皆さんをはじめ、新大阪駅を利用される方々を対象としたアンケートを実施する予定である。
- ・アンケートでは、この土地でどのような土地利用を望むのかという点についても、市民の皆さんのアイデアなり、意見を頂きたいと考えている。アンケート終了後に本日いただいたご意見やアンケート結果を踏まえた、東口のまちづくりビジョンを取りまとめ、次回部会を開催したいと考えている。
- ・来年度については、ビジョンを具体化するための検討を行い、ビジョンに沿った土地利用が進む、拠点エリアの民間活用についての検討を進めていきたいと考えている。

(意見、質疑応答等)

(部会員)

- ・アンケートはどのような仕組みで行うのですか。また、パブリックコメントとの違いはあるのでしょうか。
- ・拠点エリアの民間活用の内容が新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容に引っ張られているように感じます。本部会や東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会の内容を踏まえるべきではないでしょうか。

(部会長)

- ・まず、アンケートにつきまして回答する。パブリックコメントに代わるものというわけではないし、縛られるものではない。最終的にはパブリックコメントを経て進めていきたいと思っている。
- ・拠点エリアの民間活用の例示ですが、新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討内容を羅列しているわけではありません。あくまで、事例として挙げている。

(部会員)

- ・従前居住者が大切にしてきた子育てや高齢者の居住といった言葉がないので、本部会や東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会での議論が反映されてないように思う。事例を挙げるのであれば、これまでの議論を踏まえた内容にして貰いたい。
- ・地域との議論を行った上でアンケートやパブリックコメントという流れだと思っているのだが、地域との議論は続けて貰えるのか。

(部会長)

- ・地域との議論は引き続き行います。パブリックコメントはビジョン案が完成した段階で実施する必要はあると考えている。アンケートは現時点の段階で、十三や淡路も含めた広い範囲で意見を募集したく実施するものである。
- ・久教授アドバイス等ありましたらお願いします。

(久教授)

- ・拠点エリアの民間活用の内容ですが、文字だけでは内容が伝わり難いように思う。説明文を書き加えることや他都市の事例や写真を付ける等する必要があると思う。
- ・スタートアップ企業という文言があるが家賃が高い所ではスタートアップはできない。そこで、淡路地域周辺の低廉な家賃という特徴が生きてくると思う。
- ・拠点エリアにスタートアップ企業が生まれ、起業家が淡路地域で暮らすといった流れができると、新しい機能と従来のまちが繋がってくるように思う。そうした関係性を表現できていないと新しいものばかりが入ってくるように印象になってしまうので、イメージを共有化できるように示していただきたい。

3. 閉会

(部会長)

- ・部会員の皆様のご意見をこのまちづくりビジョンに反映させるよう努めてまいります。次回の開催については、2月の開催を念頭に、事務局で進めていただく。

(事務局)

- ・ 次回の部会開催は、事務局より改めて、ご連絡をさせていただきます。

以上